

校長室通信

令和8年4月28日号
志免町立志免西小学校
高良 祐治

4月7日の始業式から3週間が過ぎました。10日に155名の新入生を迎え、995名で令和8年度志免西小学校の学校教育がスタートしています。私も本校3年目を迎え、たくさん子どもたちと教職員、保護者の皆様や地域の方々と、これからどのような志免西小が創られていくのか楽しみにしているところです。

4月は、子どもたちにとって、クラス替えがあり、新しい先生との出会いがあり、なんとなく落ち着かない日々だと思います。教師にとっても、これからどんな学級にしていこうと思案しながらの学級体制づくりの時期です。とても大切な時期でありながらも、なんとなくフワフワした時期でもあります。

そんな年度初めだからこそ、大切にしたいことがあります。

時を守り、場を清め、礼を尽くす

ドキュメンタリー作家で、イギリス人の父と日本人の母をもつ山崎エマさんが、インタビューで、「アメリカで働きだしたら、当たり前のことをやるだけですがごく褒められた。」とおっしゃっていました。

時間通りに行動したり、責任もって最後までやり遂げたり、周りのことに気を配ったり…。では、そのような習慣はどこで身に付けたのか振り返ってみると、日本の小学校生活だったそうです。

今年の東京大学入学式の祝辞で、劇作家の野田秀樹さんが「生成 AI は、初恋の切なさは知識としては理解できても、その切ない心はわからない。それは体が無いからだ。」とおっしゃっていました。

これらのことから、小学生という体も心もどんどん発達していく6年間に、たくさんのことを、体を通して考えてみたり、やってみたり、話し合ってみたりすることが大切だとわかります。

その基礎の基礎となるのが、「時を守り、場を清め、礼を尽くす」だと思います。これは、教育学者の森信三のことばですが、科学技術がどれだけ発達し、便利な世の中になっても、人間が社会的な生活を続ける限りは、最低限必要なことだと思います。

■ 時を守る

私が上司から言われたことで印象に残っていることの一つに、「人の時間を奪わない」があります。

「集団生活で、開始時刻や割り当てられた時間を守らないことは、そこに参加している全員の時間を奪うことになる。『少し遅れただけ』と思うかもしれないが、奪われた時間は、×(かける)参加人数分になる。その上、信用を失い信頼されなくなる。あなたにとって遅れる理由があるかもしれないが、それが、

周りにとって待たされる理由になるとは限らない。」

時を守るという感覚は、一人一人違うように思います。それは、生まれてからこれまでの生活習慣や意識によってつくられていると思います。朝の会に間に合うように登校し、各授業開始に間に合うように席に着く。期限に間に合うように課題を提出する。このような日々の積み上げが、周りの信頼を得ることにつながっているのだと思います。

■ 場を清める

授業中、鉛筆や消しゴム、ノートや教科書などをよく机から落とす子どもがいます。そのような子どもの机の上は、関係ないものが出ていただけでなく、ノートの書き方も乱雑で、姿勢も崩れがちです。

落ち着いて学習している子どもの机の上は、教科書やノート、筆箱の置き方も机の外周に対して垂直か平行であり、ノートの書き方も整っています。

掃除時間の掃除を頑張ることはもちろんですが、日頃の整理整頓が、学びの基礎をつくっているのだと思います。

■ 礼を尽くす

今年も、朝の校門に立っていますが、よく挨拶をしてくれます。とてもうれしくなります。

子どもたちは、先生から勉強を教えてもらったり、友だちに助けてもらったり、互いにたくさんの施しを受けています。それらに対して感謝の気持ちを伝えることで、教室の居心地はどんどん良くなってくると思います。

日本(人)が大切にしてきたこれらの3つのことを、日頃から心がけることで、当たり前のこととして身に付ける。それが、今だけでなく将来にわたって充実した人生をつくる基本となるのだと思います。